

「あなたの御言葉は、わたしの道の光、わたしの歩みを照らす灯」

(詩編 119 編 105 節)

わたしたちが暗い道を歩くとき、灯りが必要となります。わたしたちの周りには様々な情報が溢れていますし、知りたいことを調べるツールもありますけれども、わたしたちには、山あり谷ありの人生を導き、行く手を照らし、生きることの全てを託すことが出来る拠り所がぜひ必要であります。

聖書の中の讚美歌集である詩編 119 篇 105 節に次のように詠われています。「あなたの御言葉は、わたしの道の光 わたしの歩みを照らす灯」と。短い言葉ですけれども、これを詠った詩人の思いのすべてが凝縮されていると言わねばなりません。すなわち「神よ、わたしの人生は良いときばかりでなく、最悪と思われるような苦しみを味わうときもありました。けれどもあなたほどのようなときにあってもわたしを見離すことなく、御言葉によってわたしを慰め、生きていくための希望を与えてくださいました。これからの歩みにおいても、神よ、あなたの御言葉こそ、わたしが生きていく道を照らす真実な光です…」と、神への深い信頼が言い表されています。

わたしたちは先のクリスマスにおいて、まことの光である方がわたしたちの世に来てくださったとの知らせを聴きました。ヨハネによる福音書は「その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである(1章9節)」と告げています。そうです。十字架と復活のキリストの光に照らされるとき、わたしたちが生きていくために本当に必要なものが見えて来るのです。

(久野真一郎)

